

S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島

NO. 102

平成17年10月1日発行





【ま四角三つ】

～中央公園～

CONTENTS

「特集」織る・装う 〜大島紬の今〜	3
クローズアップ 外山雄大さん	12
学校探訪 桜島中学校	14
カメラトピックス	16
ハロー鹿児島	18
私の好きな場所 ソイ・オルガ・ウンヨングさん	20
ふるさと再発見〜文化財編〜 野元尚巳さん	22
あなたのフォトサロン 東下の田の神	24
よかタイム 谷山写友会	26
街角ウォッチング 栗脇ゆかりさん	27
わが家の味じまん 松陽台	28
館のたからもの 追立さんファミリー	29
わが町上空 支所編 鹿児島市水道局	30
郡山支所周辺	

★表紙写真説明

大島紬を着て出かけた天文館。どこに寄ろうか思案中です。



織る・装う

大島紬つむぎの今

今年は愛知万博「愛・地球博」が開催されましたが、昭和34年のベルギー万博には、大島紬が出品され、銀賞を受賞。世界に高く評価されました。約1300年の歴史を持ち、世界一精巧なかすり縞といわれる大島紬。昭和51年をピークに生産量は減りましたが、近年、大島紬の良さが再認識されています。そんな大島紬の今を訪ねてみました。

つむぎ コレクション

本場大島紬織物協同組合主催

第5回大島紬試着体験参加者は
10歳代～60歳代の158人

- 10歳代 (8人) ・ 20歳代 (80人)
- 30歳代 (42人) ・ 40歳代 (10人)
- 50歳代 (12人) ・ 60歳代 (6人)

大島紬を着た感想を聞きました。

- ・背筋が伸びて気持ちがシャキッとした
- ・風のようにしなやかで織った人の思いを全身で感じました
- ・身体が引き締まった感じで着心地がよかった
- ・新鮮で涼しい感じがした
- ・すごく軽くて暖かった
- ・思っていたほど苦しくなかった
- ・身体になじんで動きやすい
- ・歩き方が大変だったけど、おしとやかになりました
- ・洋服を着ている感覚で、身のこなしが楽なところが気に入りました
- ・鹿児島の伝統工芸品の大島紬を勉強したいと思いました

多くの方が大島紬を着ることにより、
大島紬の良さを知ることができたの
ではないでしょうか。



澤津川 琴絵さん

以前から興味があって、ぜひ着てみたかったんです。大島紬は豪華なイメージじゃなく、洋服感覚で街の風景に馴染みやすいと思います。着ても疲れませんね。



佐伯 美恵さん



友だちが成人式で着ているのを見て、とてもすてきだったので、自分でも着てみたかったですよ。着てみたら、みんなに見てもらいたくて街を歩きたくくなりました。いつか買いたいです。

大島紬を想う

日ごろから大島紬を愛用している人、初めて着てみた人から
大島紬の魅力を知りました。



本場大島紬代表クイン
堀田 純子さん

今着ている洋服は、世界的なデザイナーの森英恵さんが大島紬を使ってデザインされたものなんです。デザインもすてきで、普通の洋服にはない、しなやかさがありますね。1300年の伝統を持ち、県を代表する本場大島紬。先人の知恵と歴史や伝統を感じます。大島紬はいろいろなバリエーションがあり、手軽になってきています。もっと皆さんに大島紬の良さを知ってもらいたいですね。



久木元 利子さん

ちょっと改まったおしゃれ着として着られます。着やすく着崩れにくいし、やっぱり軽いところがいいですよ。動いたときの「シャツシャツ」とするきぬ擦れの音が心地いいですね。



安田 清信 さん

以前は全部手書きで根気のいる作業でした。コンピューターが導入されてからは、できあがりのイメージが早く分かるようになりましたね。
 仲買人や消費者に好まれるデザインが求められます。色など時代に合った開拓をしていかないとけません。
 魅力あるデザインを作っていきたいですね。



伝統を
守り
時代を
先取り

大島紬の文様は小さな十字絁で表現されている。製造工程を熟知し、綿密で根気が必要とする作業。また時代のニーズを先取りした新鮮な感性で製品企画に添ったイメージを表現していかなければならない。

2000	1975	1959	1955	1954	1944	1930	1879	1720
平成12年	50年	34年	30年	29年	19年	8年	明治12年	享保5年
パリで開催された春夏コレクションで森英恵さんが大島紬を使った衣装を発表	本場大島紬が経済産業大臣の伝統的工芸品に指定される	ベルギー万博で銀賞を受賞	大島紬の2次加工製品の考案	白地大島紬生産される	織物製造販売取締規則が発令	総絞式大島紬の考案 多色入り泥藍大島紬の考案	商品化が始まる	薩摩藩主から役人以外の島民の紬着用禁止令が出される
						藍大島紬・夏大島紬・変わり地風大島紬・経緯総絞式大島紬の考案	絹の布を織りはじめる 西暦700年頃 植物染がはじまる	奈良時代

歴史



二度織られる大島紬

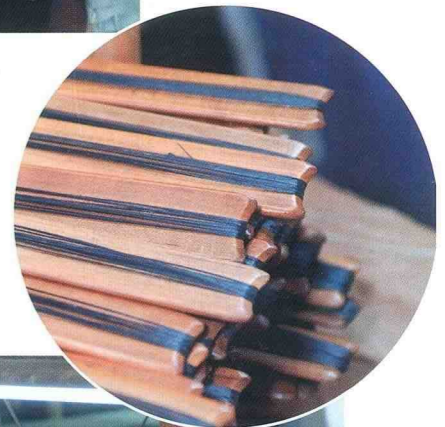
大島紬は先染織物で、織る前に糸を染める。絁文様を染めるのに一度織り締められ、その後機織りされる。絁機は絁糸を綿糸で固く織り締めるので織機より大きい、そして強い力を要するので主に男性の仕事。力加減など細心の注意と技術を要する。

締めを始めて40数年になりますが、絁の基本となる部分ですので、正確に織り上げていくことをいつも心がけています。

元野 信祐 さん



糊張り
絁締前に整経してそろえた糸を糊付け、乾燥させて固める。





着物が好きで、デザインに携わりたかったんです。女性に好まれることを重視しています。洋服などの流行を取り入れながら、新しい感覚のデザインの柄を作っていきたいと思っています。

DESIGNER デザイナー 井上知美さん

伝統工芸に興味があり大島紬の仕事につきたいと思っていました。完成まで多くの人が携わっている、それぞれの工程の特徴を生かしながら、デザインを考えています。デザインには、はやり廃りがありますが、長い間着ていただけるものができるといいですね。いつかは自分でデザインしたものを着てみたいと思っています。



DESIGNER デザイナー 東美咲さん

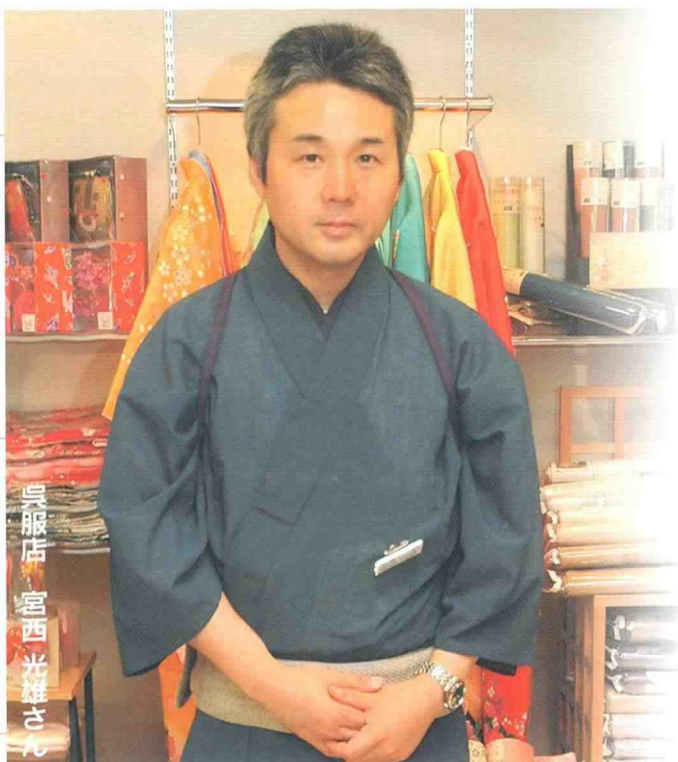
軽くて着心地がいいので、気軽に自分でもよく着るようになっています。難しく考えなくて洋服感覚で着てほしいですね。小物や半襟などをコーディネートしてみても、いろいろなバリエーションを楽しんでみてはどうでしょうか。詳しい人にアドバイスをもらうのもいいでしょう。大島紬は着てみて良さが分かるので、1人でも多くの人に試着してもらえよう、気軽に着れる機会が増えてほしいです。



STYLIST スタイリスト 川前恵理子さん

呉服販売店から

商品全体の3割くらいが大島紬です。以前に比べると商品の幅が広がりました。お客さんがどんな時に着るかお聞きして、流行に左右されない、個性的で斬新な柄をお勧めしています。娘さんのいらつしやる人がよく買われます。孫の代まで着られますからね。幅広い年代層の人が自分で着られるようになり、気軽に着ていく場所が増えればいいと思います。



呉服店 宮西光雄さん

新しい世代の大島紬に期待

大島紬産業は鹿児島島の南国的な気候、風土、土壌に合ったものだと思います。大島紬はほとんどの工程が手作業で、ゆつくりとしたリズム、温かみのある、心臓の鼓動のような調子で織っていきます。

2代目や3代目の若い後継者も生まれ、互いに切磋琢磨するなかで、新しい世代の大島紬産業が生まれてくることを期待しています。

クールビズやウォームビズにも対応しながら新しい商品開発を急がないといけません。

糸の作り方から変えたり、カシミヤなどの素材と合わすことで季節に合った製品が出てくるのではないのでしょうか。若い感覚を引き出して、世代交代を進めていきたいですね。

これからは、受け身でなく一歩前に踏み出して自分から情報を見つけてくるとか、企画を提案するとかい



本場大島紬織物協同組合 理事長 窪田茂さん

う態勢に変わっていかないといいけません。

また、ITを活用して世界中にアピールしていくことが大事だと思います。

着物だけにとらわれず、洋服も取り込んだデザイン、ファッション、着物の作り方を若者に期待します。洋服メーカーと提携して、愛用者のすそ野を広げていきたいですね。

大島紬の素晴らしさを日本はもとより世界へ発信するようなチャンスを作っていかなければなりません。

Close Up

クローズアップ

オモチャキッドプロデューサー

とやま たけひろ

外山 雄大さん

略 歴

昭和44年生まれ。緑ヶ丘中学校、甲陵高校卒業。タロット占い師、おもちゃの露天商などを経て、2年前にイベント企画会社を設立。オモチャキッドショーはスーパーや自治体のイベントなどで開催。テレビでも昨年4月から放映中。



ショーの後にはいつも子どもたちに囲まれるオモチャキッド

子どもの笑顔とおもちゃで遊ぶ権利を守るため、勉強を押し付ける悪の工リート軍団と戦う「オモチャキッド」。

「仕事より夢優先のメンバーとともに」

夜9時、とある公園。「勉強しなさい。世の中は競争社会よ」「遊びは子どもの仕事だぜ。レインボーメガトンハンマー！」「うわあつ」。せりふが飛び

交う。大人たちが大声をあげて動き回る。

オモチャキッドショーの練習はメンバーの仕事が終わってから始まる。外山さん以外はみんな他の仕事を持っている。「練習や衣装作りで深夜2時なんてざら。朝5時までするときもあって、みんな仕事大丈夫なのかなと心配しちゃいますよ」と話す。そんな情熱ある外山さんたちのショーを見る子どもたちの目は輝いている。大人も引き込まれる。テレビのアクションヒーローと同水準の衣装、音楽、演

技には驚かされる。

「オモチャキッド誕生秘話」

中学時代にアニメヒーローにあこがれた。あるとき、友だち2人に、一方がもう一方をいじめる芝居をしてもいい、自分はヒーローになりきって助けに入ったところ、教室中が盛り上がった。これに味を占めた。人数が増やし衣装を手作りし、戦隊ヒーローの真似事をしたら、これが評判。町内の夏祭りに呼ばれるようになった。高校生になると地元だけでなく、

遠くは穎娃町からも呼ばれた。「送迎付き、5千円の報酬。旅行気分で行って、ショーでは拍手喝采。子どもたちからは握手攻め。楽しかったなあ」。

プロのキャラクターショーのアルバイトをし、立ち回りも身に付けた。

卒業後は仕事をしながらショーを続けた。幼稚園などに遊具などを卸す会社で働いていた10年程前のこと。取引先の児童養護施設で目を疑った。

20年前のアニメキャラクターの絵が付いたサンダルを履いた子どもたちが。貴重なおもちゃでけんかになる日常。「今流行のキャラクターグッズで遊べない、自分だけのおもちゃで遊べない子どもたちがいるなんて」。いい子に

「遊びは子どもの仕事だぜ」



「おもちゃの楽しさ、生きる楽しさ」

今は暮らしこそ豊かだが、「元気づけに見えない、楽しそうでない子どもが多くなった気がします。塾、受験、競争社会といった理由でおもちゃで遊ぶことを忘れてしまったからではないか」と外山さんは考える。

オモチャキッドはヨーヨーやメンコなど昔ながらのおもちゃを使う。それを通して、友だちとおもちゃで遊ぶ楽しさ、好奇心を持って自分で創意工夫する楽しさを伝えようとしている。「子どもたちが楽しく生きるきっかけになったら」と期待する。

オモチャキッドショーの会場には、家庭で不要になったおもちゃの回収所がある。集まったおもちゃは修理・クリーニングされて生まれ変わり、次に遊んでくれる子どもたちにオモチャキッドが直接手渡している。

「各地にオモチャキッドのチームをつくって、活動を全国に広げたいですね。すべての子どもたちがおもちゃで遊べるように。外山さんの願いである」。



サッカー部とバレー部は毎朝のボランティア清掃が伝統



夏休みの宿題、新聞スクラップの発表。1番多かった記事は戦後60年。「核兵器はだめ」「平和が大事」



桜島中学校

創立 昭和22年5月2日 生徒数 135人 (平成17年9月1日現在)



今年8月には全国中学校サッカー大会に出場。「みんなで競い合っていること」が強さの秘訣



先輩にはオリンピック選手もいる陸上部





8月11日
市立科学館来館者200万人達成式典
平成2年に開館してから15年で突破。対象者などに記念品が贈られ、くす玉開きで祝いました。



8月18日
鹿児島市安心安全まちづくり条例(仮称)素案報告
市民が安心して暮らすことのできるまちづくりを推進するため、市民会議から市長に報告書が提出されました。



8月27日
第5回かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会
夏の夜を彩る2尺玉5発を含む1万3000発の花火に多くの人たちが歓声をあげました。



7月31日 2005火の島祭り
雨のため1日延期、新しく完成した桜島多目的広場で行われました。ステージの太鼓演奏や、5000発の花火を楽しみました。



8月1日
鹿児島玉龍中学校開設式
教育長と中高兼務の校長が、校名を記した表札を正門に掲示しました。



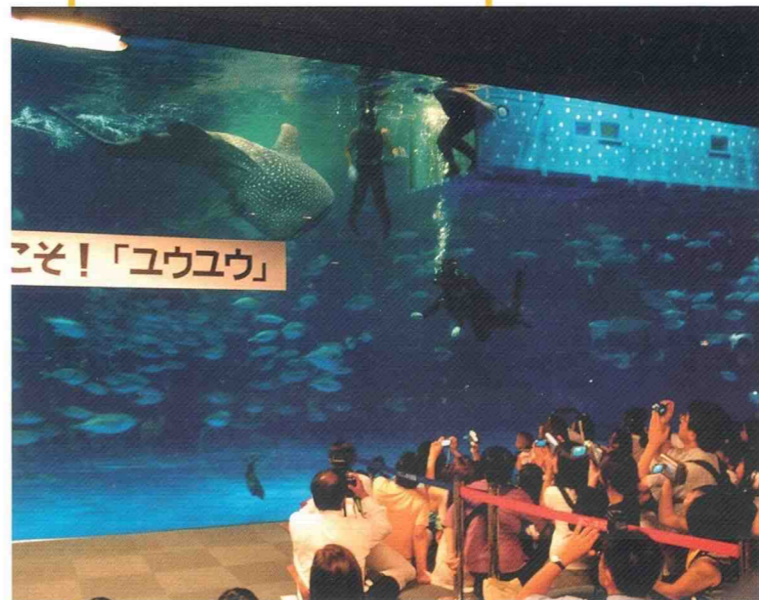
8月7日 環境フェスタかごしま
環境問題への関心を高めてもらおうと中央公民館などで開催。いろいろなイベントが行われました。



7月19日 少年の翼結団式
旧5町からの中学生5人を含めた27人が、姉妹都市のパス市やマイアミ市へ派遣されました。



7月下旬
ひまわり
(都市農業センター)



7月28日
3代目ユウユウ歓迎セレモニー
2代目ユウユウが大きくなり海に帰すことになったため、3代目ユウユウが迎え入れられました。



7月5日
市立少年自然の家開所30周年記念式典
昭和50年に開所して今年で30周年を迎えました。感謝状の贈呈や体験発表があり、吉野小学校金管バンドが花を添えました。



7月9日 生見海水浴場海開き
喜入生見町の海水浴場海開きでは、生見小学校の児童たちが、遠泳や初心者カヌー教室などに参加し、海での初泳ぎを楽しみました。



7月17日
第19回桜島・錦江湾横断遠泳大会
2年ぶりの開催に400人が参加。桜島小池海岸～磯海水浴場間の約4kmを力泳しました。



天文館ゴンザ通りを歩くオルガさん。ゴンザのことは知っていたが、鹿児島出身とは知らなかった。

日本の武家社会に興味をもつ

鹿児島大学の留学生会館で行われた市民と留学生の交流会「カントリートーク」。流ちょうな日本語と英語を使い分けて、故郷の紹介をするオルガさん。所々に出る鹿児島弁のイントネーションにとっても親しみをおぼえる。

サンクトペテルブルク大学で日本史を専攻していて、去年の10月に来鹿。現在は法文学部で文献を集めながら島津藩に関する勉強をしている。「ロシアで源平合戦の本を読んで武士に興味を持ちま

した。今の日本には、武士が社会を支配していた時代の影響が強く残っていると思います」。

鹿児島とロシアの縁

実は鹿児島にはロシアと縁の深いものが多いという。

「世界最初の露和辞典を作ったゴンザが鹿児島の人だとは知りませんでした。あと、ロシア人の大学の先生がいつも歌っていた『乾杯』を作った長瀬剛も鹿児島出身だと聞いてびっくりしました」。1年近く暮らしてみただけで、印象は「新幹線や駅ビル、ドルフィンポイントなど新しいものを取り入れて発展しながらも、昔からある歴史や自然を大切に守っている。人々が自分の住む地域に誇りを持っていると思います」。

オルガさんの故郷、サンクトペテルブルクはフィンランド湾に面した人口約470万人の都市。旧ソ連時代にはレニングラードと呼ばれ、ロシア革命の中心となった場所でもある。18世紀にこの街

を建都したピョートル大帝と薩摩藩主、島津斉彬はよく似ている。「自らがヨーロッパ文化に深い興味を持って、いち早く取り入れようとした二人は、当時としてはとてもユニーク」。

歴史を知ることが交流のはじまり

オルガさんの周りの留学生たちが大学で学んでいるのは、土木や農業、水産業など、帰ればすぐに自国の産業の発展に結びつくような分野が多い。そんな中で、留学当初は自分が歴史を専攻していることに不安を感じたという。

しかし、ロシアを離れたことは、外からあらためてロシアのことを考えるきっかけにもなった。今のロシアは、まだまだ社会全体が豊かとは言えず、親がなくて学校に行けない子どもたちが麻薬に走ったり、さまざまな問題を抱えている。「そういう子どもたちは、自分のまわりの小さな世界しか知



2年前に結婚。式の後、宮殿広場でおいとめいに囲まれて。

らない。若者が自分の国の歴史やほかの国について少しでも考えることができたなら、変わると思う」。外交の問題も同じだと言う。「背景にある自分の国や相手の国の歴史を知ることは必要」。平和のため、国のために重要なものは次の世代を育てる教育だと気付いた。「ロシアに戻ったら、今の勉強を続けて、将来は大学で日本史を教える先生になりたい」。穏やかに話すオルガさんだが、自分が学んだものを少しでも国のために役立てたいという思いが強く伝わってくる。



【ロシア出身】

ソイ・オルガ・ウンヨングさん



理解していたはずの桜島 そこは、未知の世界が広がる島だった

アラスカ遠征の帰り、シーカヤックでシアトルのユニオンレイクに浮かんでいたときの事です。そこから眺めるシアトルの街並みと、背後にそびえるマウントレーニアという山に「どこかで見た風景だな」と感じたんです。それは、錦江湾に浮かんだときに見る鹿児島市街地と桜島。もちろん、距離感、スケール感は違いますが、「わたしは、どれくらい自分のふるさとを知っているんだろう」と考え始めるきっかけになりましたね。

桜島は自転車やランニングで100周以上回っていたので、桜島のことはいくぶん知っているつもりでした。また、故植

錦江湾から望む桜島

シーカヤックを始めたのが、1998年。冒険家故河野兵市さんに勧められたのがきっかけでした。愛媛の海で初めて乗った瞬間、シーカヤックに魅了され、アラスカに行きたくなりました。あまり物事を深く考えない性格なので、翌年にはアラスカに行っていました。

んですよ。

シーカヤックという道具を使うことで、陸からは見つけることのできない桜島の新発見がありました。砂浜を掘ると温泉がわいている海岸。大正時代に噴火した溶岩が海に流れ込んでできた入り江の海面から、わき上がっている海中温泉と湯の花。昔の資料を見ると、溶岩に埋まる前は、湯治場などがあつたようです。

桜島は今でも、行くたびに新しいことに出会える魅力的な島です。

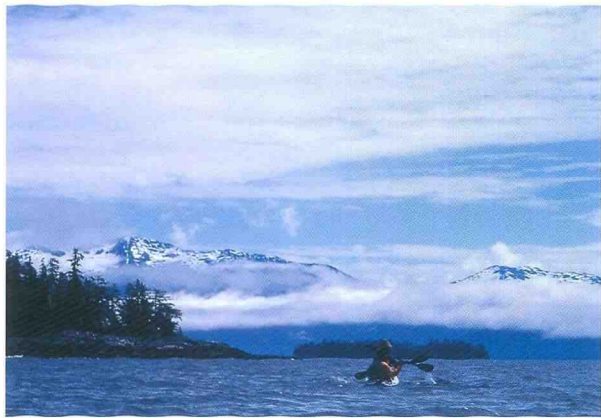
村直己さんに憧れて世界中を冒険したいという気持ちがあつたので、地元鹿児島島の自然は大したことはないと思うんですけど、

シーカヤックガイドの仕事をしていて、お客さんを自分のお気に入りの場所に連れて行ったとき、口を大きく開けて、「すごい」、「きれい」と言ってもらえたときは「やったー」と思いますね。やっぱり自分の生まれ育つた場所、住んでいるまちを褒めてもらえるとうれしいじゃないですか。

錦江湾にもサンゴがあるという事は、シーカヤックをしなければ私自身気づかなかつたでしょう。そんな体験をすると、「じゃあこの自然を大事にするには、どうすればいいのか」と考えてもらえると嬉しいです。遊びながら自然のすばらしさ、美しさに触れる。そこから自然保護に一步踏み出すのもいいのではないのでしょうか。

「取材メモ」

乗っているシーカヤックを傾かせ、おぼれそうなるふりをして、人を楽しませるユーモアたっぷりな人。いろいろな話の中に、鹿児島が好き、大切にしたいというゆるぎない愛をしっかりと感ずることができました。



アラスカ遠征。コーストマウンテンを目標に、アメリカからカナダの国境を目指してこぎ進む。



私の好きな場所

My favorite Place



野元 尚巳さん

昭和33年、鹿児島市生まれ。高校生のときから、自転車で日本各地を回る。平成12年6月から故郷を見直すため沖縄～鹿児島をシーカヤックで漕破。現在、シーカヤックによるツアーを主催。急流水難救助員、野外観察指導員などの資格をもつ。

東下の田の神

文 吉野史談会会長
川崎 正孝



所在地／東佐多町、市指定文化財(民俗資料)

ユーモラスな五穀豊穡の神・タノカンサア

田の神信仰は、豊作をもたらす農業の神として、全国に広く存在するが、石像の田の神は旧薩摩藩領内だけのもので、田の神像のある田園風景は南九州特有のものとなっている。

田の神像は、仏像型と神職型に大別される。まず仏像型、次に神職型が造られ、さらに神社の神舞や田の神講で踊る神職をかたどった「田の神舞神職型」が考え出された。この型は変化に富み、さまざまな田の神像が出現した。鹿児島市と始良町の境界に程近い鎮守神社境内にある「東下の田の神」もそんな神職型の像の一つである。

この田の神像は、高さ百二十センチ。黒色の凝灰岩の丸彫りに白などの彩色がなされ、大きな顔のシキ(わら製の編み物)を笠のようにかぶっている。下が

り目で、笑っている口元、凹凸のある大きな丸い顔は、いかにも親しみを感じさせる。袂の短い上着に長袴を着け、右手のメシゲはシキの裏にかざし、左手に腕を持って、いまにも踊り出さうである。

田の神研究の第一人者・故寺師三千男氏が、この田の神像を「立派なものですから今後とも大事にしてください」とわざわざ書簡の中で触れているほど、全く無傷で像も大きく、貴重な民俗資料といえる。

この田の神像と同型のものとして、隣の西佐多町の「鶴木の田の神(市指定文化財・民俗資料)」と、始良町の「触田の田の神」があり、作風からみて同一人物の手で、ほぼ同時期に彫られたと思われる。

西佐多町の「鶴木の田の神」の

由来を示す石碑には、「享保二十一年(一七三〇)年丙辰正月吉祥日」「奉造立田之神敬白」「西佐多浦名中」「庄屋池田仙右衛門、前田喜八作」と刻まれている。「鶴木の田の神」は、鶴木・桑之丸・舟平の三集落の持ち回りで祭られていたが、現在は西下公民館に安置され、金峰神社の春祭りに合わせて地域住民により「西下の田の神遷座祭り」が行われている。

藩政時代の昔から、田んぼの傍らで農村の日常を見守り続けてきた「東下の田の神」。時代を経た今日も、愛嬌あふれる表情と躍動感みなぎる姿には、人を和やかな気持ちにさせてくれる力を宿している。

■西下の田の神遷座祭り

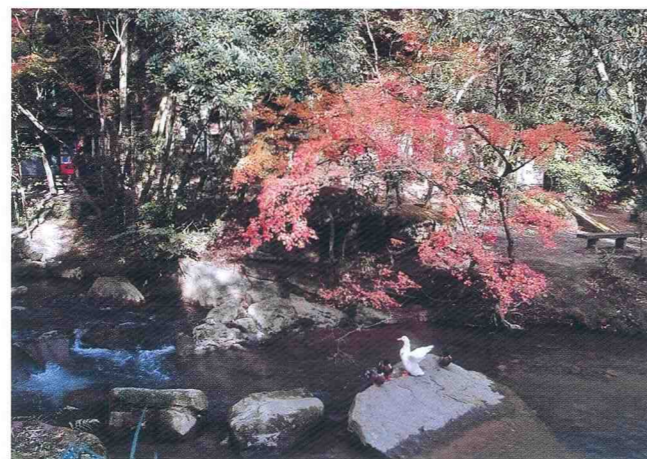
(西佐多町)
藩政時代から続く田の神ナオイ(宿替え)。昔は、持ち回りで当番の家が床の間などに田の神像を安置し、大切にお祭りしていた。



※田の神講：集落の農家が農業の話し合いを行い、田の神に五穀豊穡のお礼をする行事



「アオサギ(永田川)」 竹下 進



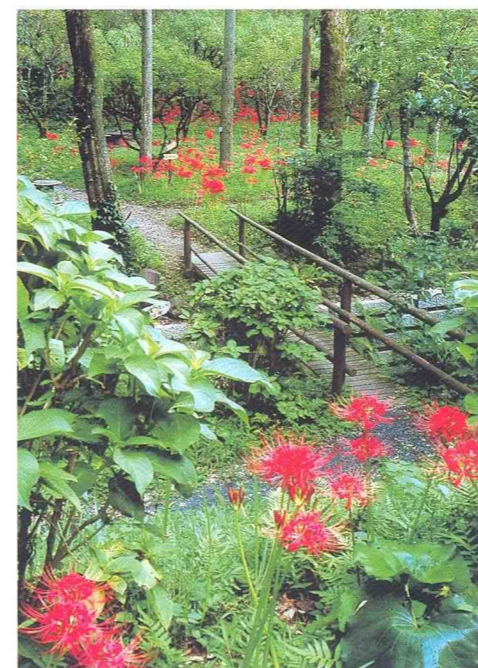
「秋の慈眼寺公園」 吉本 明義



「潮見橋」 玉利 義信



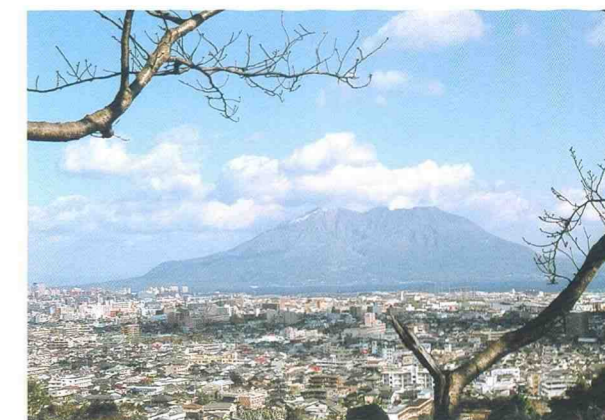
「収穫」 田中 美智子



「美術館の秋」 梶原 昭二

「鹿児島 秋 紀行」

谷山 写友会



「晩秋(谷山神社より)」 郡山 節郎



「永田川のほとり」 芝越 壽民

よか時間

TIME

好きだった石拾いと結婚前に取得したアニメーターの資格。子どもと海に行ったことがきっかけで二つが結びつき、新しい趣味の世界をつくり出した。



金魚は1～2時間、アゲハチョウは1日で仕上がる



ストーンアート 栗脇ゆかりさん

ストーンアート？

簡単に言えば、石に描いた絵。自分で命名したんです。形や触り心地のいい石にアクリル樹脂系のツールペイントで絵を描きます。描き方はアニメーションと同じ。1色塗って乾いてから、次の色を重ね塗り。「乾いたら塗る」の繰り返しです。仕上げにニス塗ると、シールを張ったような質感になりますよ。

なぜ石？

子どものころ海で石を拾うのが大好きで。丸くて、つるつとした石とか、好みの形や手触りがあるんです。

小学生になった子どもと久しぶりに石拾いをして、何かにならないかなと考え、絵を描いてみました。石と絵、どちらも世界に一つ

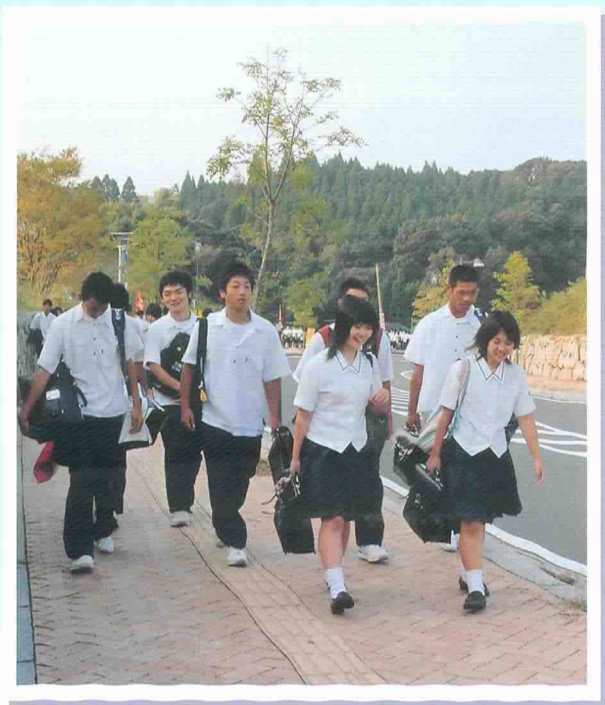
だけのものですから。宝物ができた感じでした。

石と絵の相性っていいんですか

石の模様や形に合った絵ってありますね。波模様なら十二単ひらえ、丸っぽいのはお雛様ひな、こつこつしたのは兜かぶととか。波模様に合わせて描いた髪はともきれいですし、兜は光沢に変化が出て味わい深いですよ。

一番の面白みは

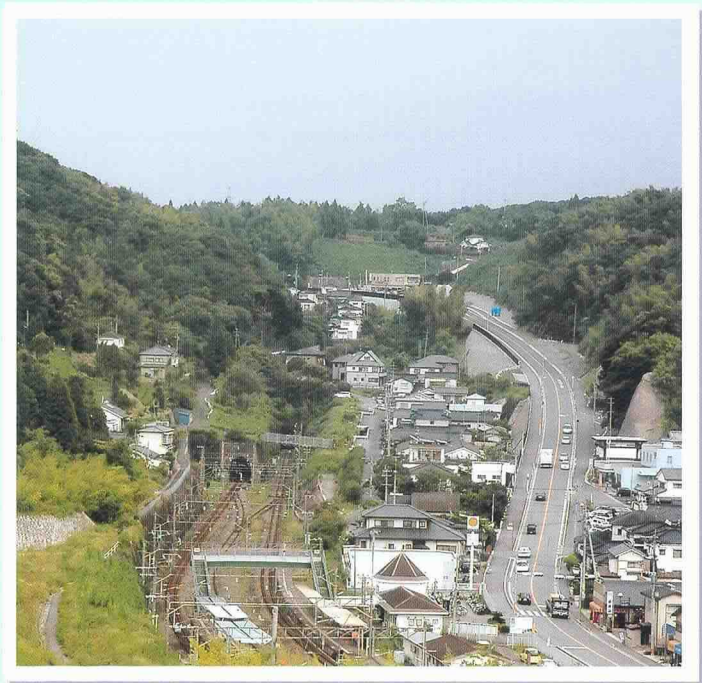
きれいだと思って拾ったのに乾くと何でもなく見える石ってありますよね。絵を描いてニスを塗ると模様が浮かんで、拾ったときの感動が再現されるんです。絵も微妙な模様や色合いが出てきますよ。この瞬間を見るために作っているといつてもいいですね。



街角

ウォッチング

～松陽台～



味が家の味じまん

「メジナの
野菜あんかけ」
「アオノリの磯汁」

追立さんファミリー
【喜入瀬々串町】



家庭の数だけ食卓があり、家庭の数だけ語りがある。テーブルに広げられた自慢の料理は、家族の笑顔を演出する。
鹿児島市内におよそ26万世帯。一人から大家族まで食卓の風景はさまざま。わが家の味は家庭をどのように彩っているのだろうか。

喜び入るまちに、また一つ食卓の明かりが灯った。「今日も大漁だあ」。目を輝かせた子どもたちの声が、家中に響きわたる。釣りが趣味の正人さんは、昨年3月に

家業の造園業を継いだ。庭づくりのほかキャンプ場・喜入の森の樹木管理も手がける。妻の禎美さんは近くの保育園で働く。共働き家族の夕食は、いつも午後8時ごろ。

16 kmある喜入の海岸線は、アジやイカ、貝類など豊かな海の幸を提供してくれる。「魚を買ったことないんですよ」。無類の釣り好き・正人さんの本日の釣果はメジナ(クロ)。「わたし、結婚前は肉派だったのに、すっかり魚好きに」と禎美さん。

魚さばきも見事に、アツアツのメジナの野菜あんかけが食卓へ。揚げたての自身魚に野菜たっぷりのあんがとろーり。甘辛の味付けは、魚や野菜と相性

ばつちりで、はしが止まらない。愛くるしい愛ちゃん(3歳)と目が合う。「おいちいでちよ?」「本当おいしいね」お口モグモグ、目線が会話。

喜入特産のアオノリの磯汁に見慣れない具が。涼斗君(4歳)が「怪獣の手」と表現する岩場で採れるフジツボの仲間・カメノテ。見かけとは裏腹に、小味があつてやみつきに。磯の香たっぷりのおつゆを飲むと、海のミネラルが口いっぱい広がってくる。

新鮮とれたての海の幸と愛情たっぷりの家庭料理。「食」は人を良くすると書く。うーん納得だなあ。

今回のレシピ

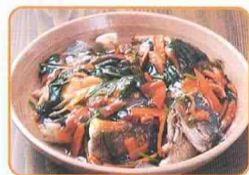
「メジナの野菜あんかけ」

1. 材料(4人分)

メジナ(クロ)2尾、干しシイタケ2枚、ニンジン1/3本、ホウレンソウ1/2束、塩少々、だし汁2カップ、砂糖・酒大さじ1、しょうゆ大さじ3、水溶きカタクリ粉

2. 調理手順

①シイタケをもどし薄切りに。ニンジンはたんざく切り。ゆでたホウレンソウを短く切る。



- ②メジナは、ブツ切りにして揚げる。
- ③鍋にだし汁、調味料を入れ煮立てる。野菜を加え、水溶きカタクリ粉でとろみを付け、魚にかける。

「アオノリの磯汁」

1. 材料(4人分)

アオノリ20g、カメノテひとつかみ、豆腐1/4丁、小ねぎ、だし汁・みそ適量

2. 調理手順

- ①鍋にだし汁を入れて煮立て、次にカメノテ、豆腐を入れる。
- ②最後にアオノリ、みそを加え煮立てる。



鹿児島市水道局

「高 榦」



高榦は、藩政時代に冷水町のわき水を水源として築造された水道施設の一つです。管路に設置され、水路の分岐と水圧調整の役割を果たしたもので、城下のあちこちにあったといわれています。

高い石積みせきかんの台座の上には水槽が設けられ、石管と結ばれていました。これらの管の一部は地下の圧力給水管とつながっており、水槽の中にはこんこんと水がわき出していました。あふれ

出た水は別の管を通り、低いところに設けられた汲み取り用の水槽に流れ込んでいました。このように当時は、「高榦」を用いて給水すると同時に、管内の圧力を調整していました。

写真の高榦は、高さが約2.5mあり、旧玉里邸（市立鹿児島女子高等学校内）の正門内側にあったものです。現在は移設され、鹿児島市水道局の正面玄関前に展示されています。

（経営管理課長 亀之園 英明）



わが町上空

支所編

「郡山支所周辺」

鹿兒島市の水がめ・甲突川の本流と支流の油須木川が合流する支所の周辺は、古くから郡山地域の中心として栄えてきたところです。

写真の中央の県立甲陵高校は、生徒数408人、今年で創立30周年を迎えます。郡山総合運動場に併設したスパランド裸・楽・良は、水着で入れる温泉や宿泊施設を備えています。夏には子どもたちが、史跡めぐりや自然探訪を通して郡山の歴史や自然を学ぶ宿泊体験学習も行われました。

甲突川源流域にある千年の森や棚田などの緑豊かな地域資源は、今後、市民の自然体験や農業体験の場として活用されることが期待されています。



市民フォト

鹿児島

No.102

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号
電話 216・1133

印刷・レイアウト／潮上印刷株式会社

